

Breaking One's Journey



2025年北京国際キャラバン & キャンプ展示会リポート 進化する中国のキャンピングカー事情

前年に続いて、2025年も中国のキャンピングカーショー「2025年北京国際キャラバン & キャンプ展示会」に行ってきました。開催期間は2月27日から3月2日までの4日間。この期間に10万人の来場者が来たといいます。その規模も大きくて、10万㎡の広さに636のブースがあり、たくさんのキャンピングカーが並んでいます。キャンピングカーのニューモデルも100台以上がラインアップされている、という盛況ぶりです。今回はキャンプレジャーの展示会も同時に開催されていたのですが、キャンピングカーの展示としてスタートしたのは2010年。「北京国際RVキャンプ展(RVCC)」という名称でした。そこから15年で急激にショーの規模が拡大していったのが分かります。

中国キャンピングカーの傾向としては、4WD車両が多いイメージです。おそらく、レジャーとして行動する範囲を考えた時、インフラ整備が行き届いていない場所へ行くこともあるからではないかと思います。悪路であっても走破できる機動力が求められているのかもしれない。しかも、4WDだからといって、アウトドア感が強いとは限らず、ラグジュアリーなクルマも多いのが特徴です。

小さいキャンピングカーは少なく、大きなキャンピングカーが目立っていました。設備も豪華で、標準でカメラがたくさんついているのも中国らしさを感じ

じます。しかも、バッテリー容量も大きいのに、車両価格は安価な印象です。デザイン性はステッカーなどがたくさん張ってあったり、少し派手さがあります。しかし、若い世代に人気の“旅する暮らし”を楽しむオシャレなキャンピングカーもあり、そのラインアップの幅の広さには驚きます。

1年前と比べて、キャンピングカーの進化を強く感じました。そのスピード感は国内以上かもしれません。しかも、中国のクルマで完結していることにも感心してしまいます。電気自動車のBYDでキャブコンを作っていたり、最も大きなブース展開をしていたのは、マクススという自動車メーカーでした。マクススは高級車や電気自動車などでグローバル展開しているメーカーです。

ここ1年の変化をみてみても、そのスピードは日本を抜いているのではないのでしょうか。しかも、自国のクルマやパーツでキャンピングカーが完成していることにも驚きます。輸入キャンピングカーやベース車両の輸入車などはほとんどありません。もしかしら、今後、日本に中国のキャンピングカーが入ってくるかもしれないと考え、私たちもそのスピード感に対応できるようにしなければと思います。また今後、どのようなキャンピングカーが活気のある中国から生まれるのかも楽しみです。

協力：RVランド

